

メロン栽培技術情報 No.5

平成28年6月14日

JA大潟村営農支援課

大潟村メロン生産班

メロン収穫期までの管理について

まもなく梅雨の時期に入りますが、下記の点に注意しながら、栽培に取り組んでください。

- ・梅雨明け前の長雨に備え、明渠などで排水対策を万全にする。
- ・雨天後の晴天日には、急激な高温が懸念されるため、換気をよくして高温多湿による病害発生と萎れ対策につとめる。
- ・急激な気温上昇による萎れ等で樹勢が衰え、その後の回復が困難な場合、一時的に白やシルバーの遮光・遮熱ネット(遮光率30~40%程度)を張る等して回復を図る。
- ・今後の病虫害(べと病・うどんこ病・ダニなど)の発生に備え、天候を考慮しながら定期的に防除をする。(技術情報No2参照)

1、温度管理

日中 設定温度を28℃~30℃とするが、高くても33℃以上にならないようにする。
夜間 果実硬化期~ネット発現初期の間は、雨水がハウス内に流入する場合を除き、夜間は開放し換気に努める。この時期の高温はネットの発現が悪くなる(最低気温15℃~18℃目標)。その後、ネット形成完了~収穫に至るまでは15℃前後の最低気温を目標とし、ハウス内の寒暖差をつけるよう努める。

2、収穫期の決定

アムスメロンは一般的に着果後50日~55日(甘えんぼは55~60日)で収穫できるが、日数以外にはつぎの変化が目安となる。

- 1)着果枝の葉がMg欠乏で黄化褐変する。
- 2)へたの周囲が黄色に変化する。
- 3)果皮が緑色から黄緑色に変化する。
- 4)へたの周囲に離層が発現する。

3、収穫方法

果温の上昇を抑えるため、早朝涼しいうちに収穫し、高温のハウス内に放置しない。果梗は長目に切り、箱詰め時に切りとって、切り口を新しくして出荷する。